

ハンタウイルス肺症候群ってどんな病気？

☑ハンタウイルス肺症候群とは？

- ・ハンタウイルス肺症候群は、ハンタウイルスによる急性呼吸器感染症です。南北アメリカ大陸で発生が見られます。

☑ハンタウイルス肺症候群ってどんな病気？

潜伏期間	1週間から5週間程度（通常約2週間）
症状	発熱や咳、筋肉痛などの症状に始まり、急性に進行する呼吸困難が特徴。下痢・嘔吐、頭痛を伴うこともある
感染経路	ウイルスを含むネズミなどのげっ歯類のフンや尿に汚染された埃を吸い込むことや、フンや尿で汚染された食品や飲料水を摂取することで感染する。基本的にヒトからヒトへ感染はしないが、ハンタウイルスの一種であるアンデスウイルスは、ヒトからヒトへの感染事例が報告されている
治療法	抗ウイルス薬はなく、症状に応じた対症療法が行われる

☑どのくらい発生しているの？

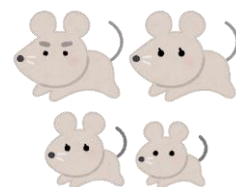
- ・海外では1993年に米国で発見されて以降、北米、中南米で患者発生の報告がありますが、日本国内でのハンタウイルス肺症候群の発生例や輸入例はありません。

☑最近の発生について

- ・2026年5月2日、南大西洋上を航行中のクルーズ船においてハンタウイルス感染症の発生がWHOに報告されました。
- ・現時点ではこのウイルスを保有するネズミなどのげっ歯類は日本国内に生息しておらず、日本国内で本事例の原因となったハンタウイルスに感染する可能性は極めて低いと考えられています。
- ・仮に感染者が日本に入国した場合でも、感染者と接触者の適切な管理により、感染の広がりは抑えられるとされています。

☑注意すること

- ・国内で承認された予防接種はありません。
- ・流行地域では、ネズミなどのげっ歯類との接触を避け、清潔な環境を保つようにしましょう。
- ・流行地域からの帰国時や帰国後に体調不良を感じた場合は、最寄りの保健所にご相談ください。その際、流行地域への渡航歴やネズミなどのげっ歯類との接触歴を伝えることが重要です。



お問い合わせは
お近くの保健所へ

